

# 令和3年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年4月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並みか低い	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み

○5月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
カンシヨ	① ナカジロシタバ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	② イモキバガ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
さとうきび	メイチュウ類 ① (カンシャシンクイハマキ、イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)
（温かんみかん）	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② そうか病	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) 新梢の発生量が増加するため
	④ ミカンハモグリガ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗) 新梢の発生量が増加するため
	⑤ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
（タかんかん）	① かいよう病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② アブラムシ類	少	↗	並	平年の発生量の推移 (↗) 新梢の発生量が増加するため
	③ ミカンハモグリガ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
マン ゴー	① マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
ヘ チ マ	① ベと病	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗)
	② ヒメクロウリハムシ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移 (↘)
	③ ミナミキイロアザミウマ	多	↘	やや多	平年の発生量の推移 (↘)
(ゴ 施 設 ヤ ー)	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② 斑点病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	③ ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	やや多	つる先当たり成虫数が平年より多いため 平年の発生量の推移 (↗)
ピー マン (施 設)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② ヒラズハナアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ タバココナジラミ	並	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
ト マ ト	① 黄化葉巻病	多	↗	多	平年の発生量の推移 (↗)
	② うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ コナジラミ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
さ (平 い 張 ん げ ん)	① タバココナジラミ	やや多	-	-	
	② ミナミキイロアザミウマ	並	-	-	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	4月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が中発生であった。施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。
（施設ヤ）	ウイルス病	WSMoVはミナミキイロアザミウマ、ZYMVはアブラムシ類がウイルスを媒介する。2月のミナミキイロアザミウマの発生量は多発生であり、アブラムシ類無翅虫もハウス内で確認されているため、早期発見と防除を徹底する。また、羅病株は見つけしだい抜き取る。

# 令和3年度 宮古群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年4月22日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
平年並みか低い	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み

○5月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠	
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)		
さとうきび	メイチュウ類 ① (カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(→)	
	マンゴー	① マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
		② ハダニ類	並	↘	並~やや少	平年の発生量の推移(↘)
へちま(施設)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)	
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)	
	③ タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)	
オクラ	① うどんこ病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)	
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)	
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)	
	④ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	4月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。防除員報告により多良間島と伊良部島で多発生情報あり。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	チャノキイロアザミウマ	一部ほ場の新葉で発生が確認されている。対策は、不要な新梢やコミカンソウ類など雑草の施設外への除去を行う。
（施設・とうがん栽培）	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。
（ゴーヤー施設）	ウイルス病	アザミウマ類媒介のウイルス病が数件発生している。対策法として、発病株は見つけ次第抜き取り処分する。媒介虫となるアザミウマ類やアブラムシ類の防除を徹底する。罹病株で使用したハサミ等からも汁液感染する可能性があるため、農機具の消毒を徹底する。

# 令和3年度 八重山群島 病害虫発生予報 第2号(5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年4月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
平年並みか低い	ほぼ平年並み	ほぼ平年並み

○5月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
水 稲	① 葉いもち病	多	↗	多	平年の発生量の推移（↗）
	② セジロウンカ	多	↘	多	平年の発生量の推移（↘）
さ と う き び	メイチュウ類 (カンシャシクイハマ キ、 イネヨトウ)	並	↘	並	芯枯莖率の平年の発生量の推移（↘）
マ ン ゴ ー	① ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
オ ク ラ	① フタテンミドリヒメヨコバイ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
へ ゴ 施 設 ヤ ー	① 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	4月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。